

資-2. 地区現況特性の整理

2 地区現況特性の整理

本章では、館山市全体の現況を整理しました。本章では、市内を5地区に区分し、それぞれの地区において現況を整理しました。

2-1 地区区分の設定

本市における合併の経緯や、市街地及び集落の位置及び区域を単位としたコミュニティを考慮し、以下の5地区に区分しました。

- ①那古・船形地区
- ②北条地区
- ③館山地区
- ④豊房・館野・九重地区
- ⑤西岬・神戸・富崎地区



図 2-1-1 地区区分

2-2 地区の概況整理

(1) 那古・船形地区

- 船形漁港周辺、一般県道館山富浦線沿道に住宅地が立地し、その他は山地や田畑等の自然的土地利用となっている
- 地区内人口は減少傾向にある
- JR 内房線的那古船形駅が所在する他、主要な道路は各方面に通っている
- 主要な道路の歩道は、一般国道 127 号や海岸線沿線の市道において充足しているものの、その他の道路は充足していない

1) 概況

本市の北部に位置し、船形漁港周辺と一般県道館山富浦線沿線に住宅地が立地しています。また、本区域北部は主に山林や畑、南部は主に田畑が分布しています。

2) 人口・世帯数

本地区の人口は昭和 60 年から 20 年間で約 15%減少している一方で、世帯数は約 10%増加しています。

人口密度は、昭和 60 年から 20 年間で約 15%減少し、平成 17 年では 8.6(人/ha)となっています。

3) 主要な施設

本地区は、南北に JR 内房線が通っており、那古船形駅が所在しています。

主要な道路は、南北に一般国道 127 号、一般県道犬掛館山線、館山富浦線、東西に一般県道和田丸山館山線が通っています。歩道は一般国道 127 号や海岸線沿道の市道において充足しているものの、その他の主要な道路においては充足していない状態にあります。

また本地区には、那古船形駅周辺に街区公園である船形公園と根岸公園が所在しています。

4) 市街化動向

用途地域内で新築が多く発生しています。

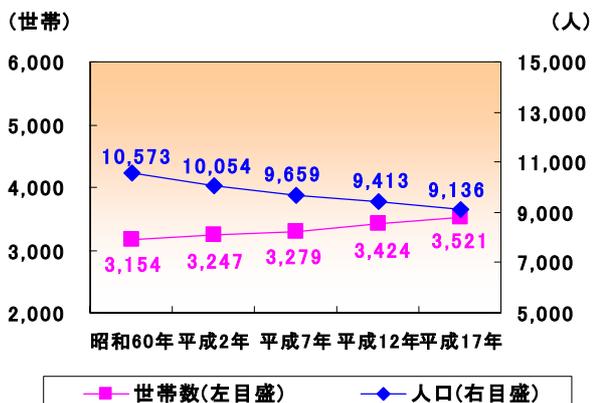


図 2-2-1 人口及び世帯数の推移

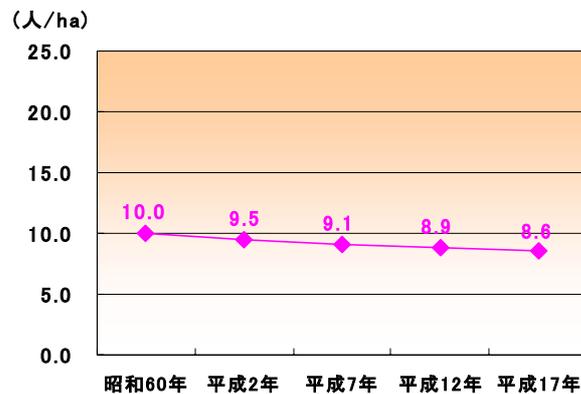


図 2-2-2 人口密度の推移

【出展：各年国勢調査】

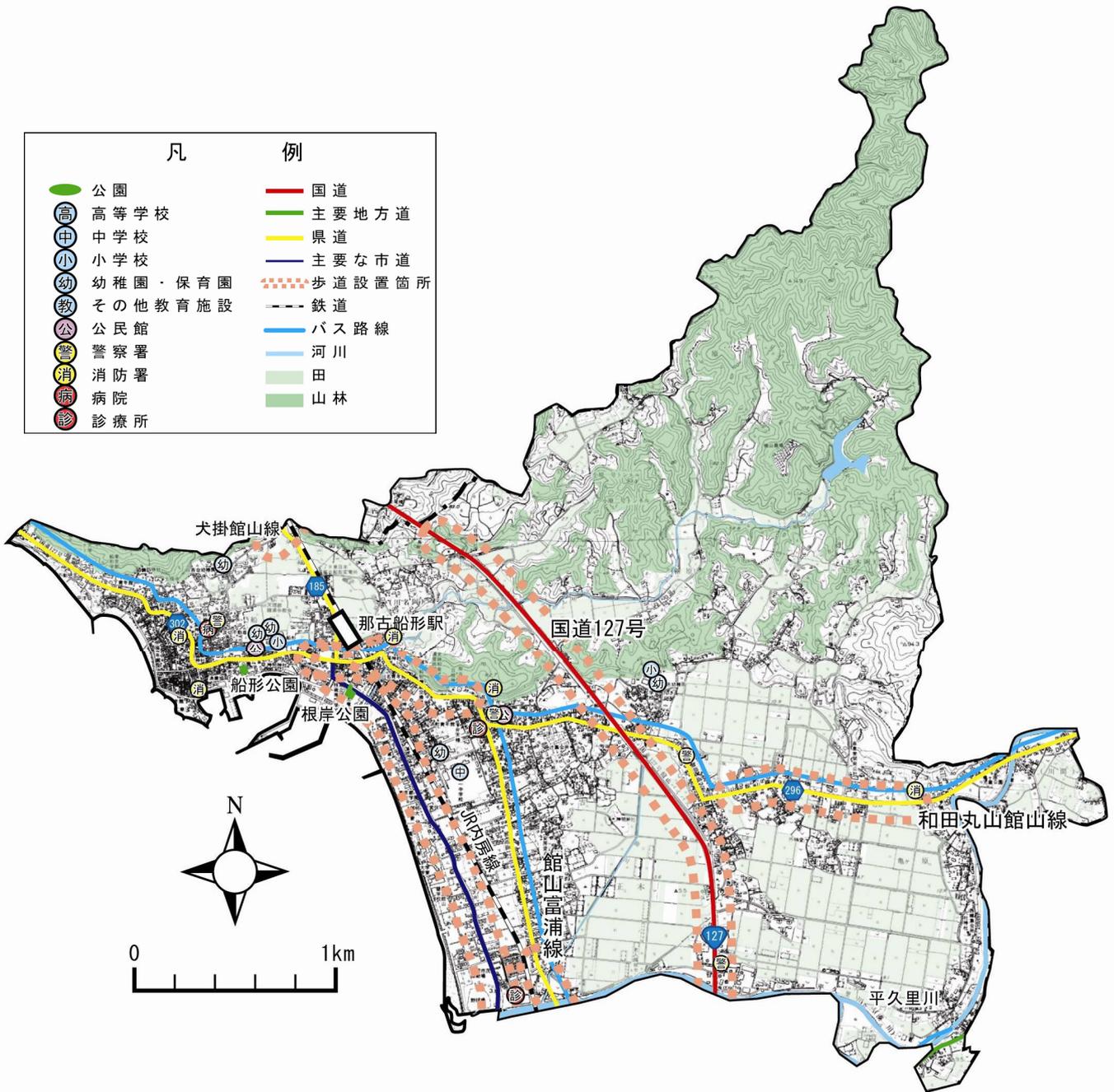


図 2-2-3 地区概況

(2) 北条地区

- 本市の中心となる地区で、館山駅を中心に広く住宅地や商業地が立地
- 地区内人口は減少傾向にある
- 主要な道路は各方面に通っている
- 主要な道路沿道で市街化が進行している

1) 概況

館山駅を有する本市の中心となる地区で、特定地域振興重要港湾である館山湾(平成 12 年 5 月選定)に面しています。また、本地区の海岸から一般国道 127 号までのエリアで商業地や住宅地が中心に立地しています。

2) 人口・世帯数

本地区の人口は、昭和 60 年から 20 年間で約 10%減少している一方、世帯数は約 10%増加しています。また人口密度は、昭和 60 年から 20 年間で約 10%減少し、平成 17 年では 17.2(人/ha)となっています。

3) 主要な施設

本地区は、南北に JR 内房線が通っており、館山駅が所在しています。

主要な道路は、南北方向に一般国道 127 号、国道 410 号、主要地方道富津館山線、一般県道館山富浦線、東西に一般国道 128 号が通っています。歩道は一般国道 127 号、128 号において充足しているものの、主要地方道富津館山線や一般県道館山富浦線においては充足していない状態にあります。

また本地区には、街区公園である中村公園や近隣公園である北条中央公園が所在しています。

4) 市街化動向

用途地域内で多く新築が発生しているのに加え、用途地域外でも一般国道 127 号や主要地方道富津館山線沿道で新築が発生しています。

また、館山駅周辺地区で都市再生整備計画が進行しています。

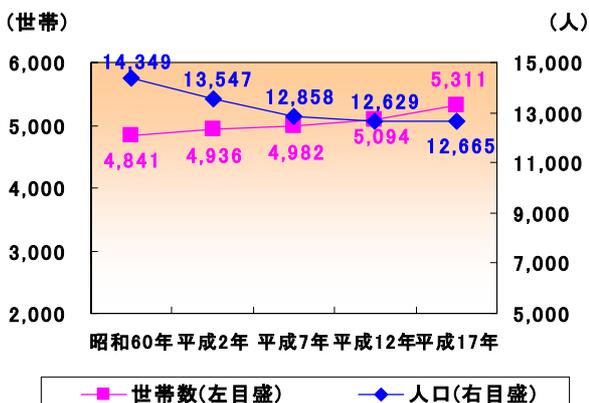


図 2-2-4 人口及び世帯数の推移

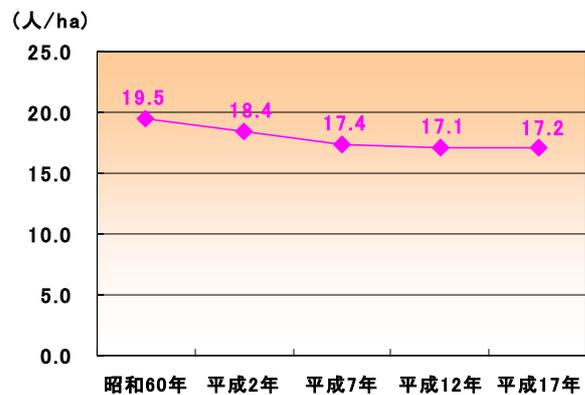


図 2-2-5 人口密度の推移

【出展：各年国勢調査】

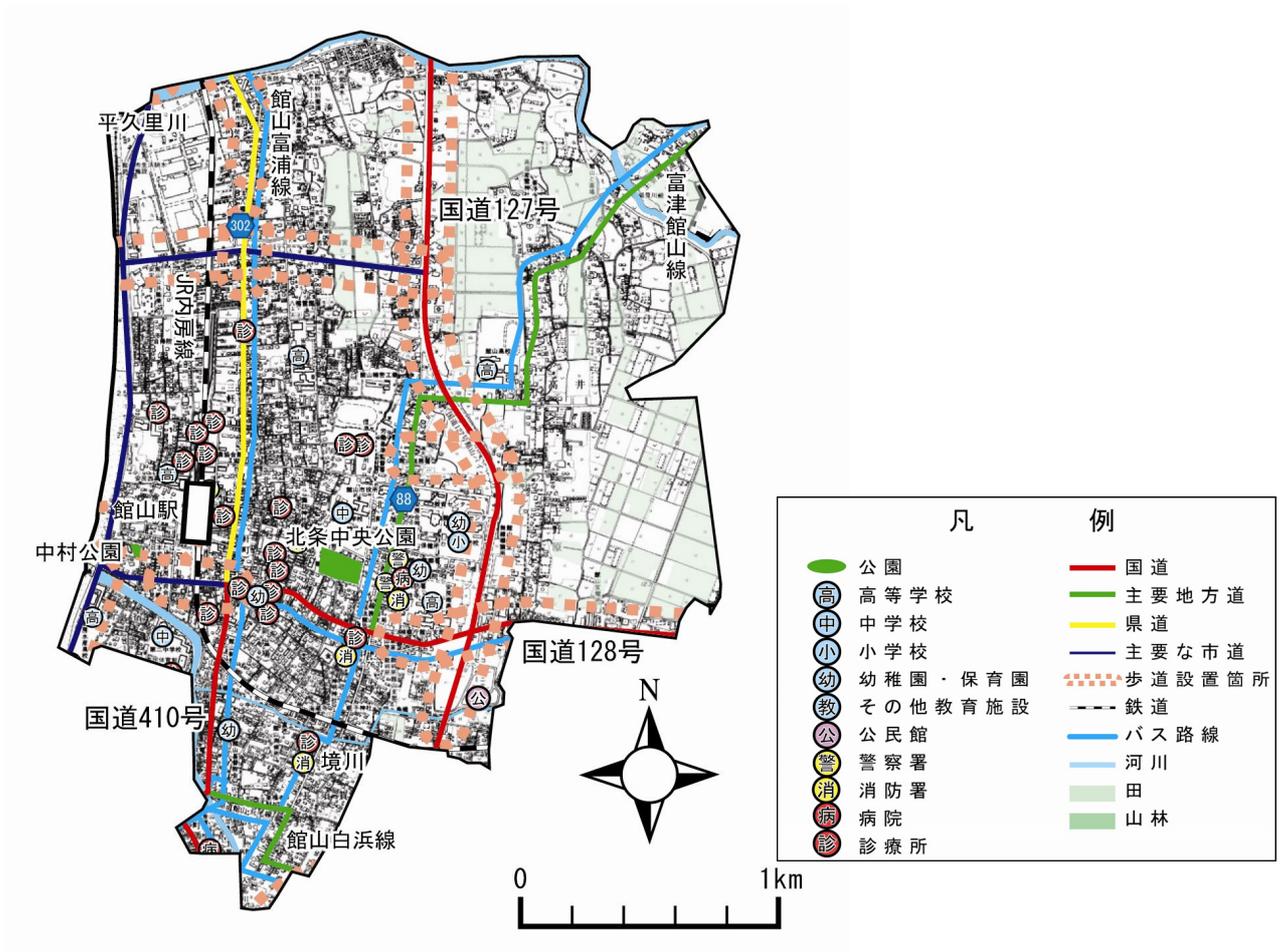


図2-2-6 地区概況

2 地区現況特性の整理

(3) 館山地区

- 北部は主に住宅地、南部は山地等の自然的土地利用となっている
- 人口は減少傾向にある
- 東西方向の主要な道路である一般県道南安房公園線において歩道が充足していない
- 用途地域縁辺部では市街化が進行しているところも見受けられる

1) 概況

北条地区同様、本市の中心となる地区で館山湾に面しています。本地区の北部は主に住宅地が立地しており、南部は主に山林が分布しています。

2) 人口・世帯数

本地区の人口は、平成2年をピークに減少に転じ、ピーク時から現在までに約10%減少しています。一方、世帯数は昭和60年から増加傾向にあり、約15%増加しています。

人口密度は、平成2年から減少傾向にあり、ピーク時から現在までに約10%減少し、平成17年では14.0(人/ha)となっています。

3) 主要な施設

本地区の主要な道路は、地区北部を東西方向に一般県道館山港線、南安房公園線、区域東部を南北に一般国道410号、410号北条バイパスが通っています。歩道は一般国道410号、410号バイパス及び一般県道館山港線は充足しているものの、一般県道南安房公園線の殆どは未整備であり、全体的に充足していない状態にあります。

また本地区には、地区公園の宮城公園や風致公園の高ノ島公園、沖ノ島公園、総合公園の城山公園が所在しています。

4) 市街化動向

用途地域内で多く新築が発生しています。また、用途地域縁辺部にも新築が発生しています。

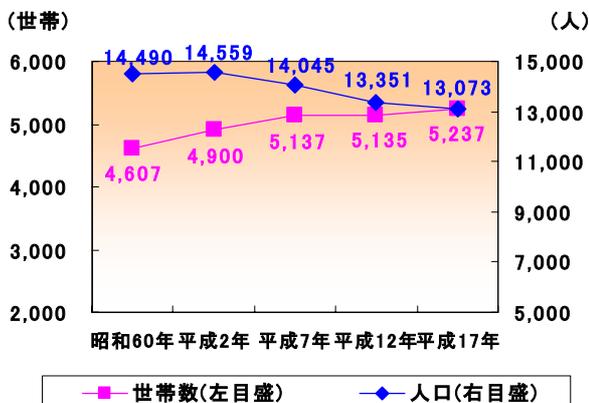


図2-2-7 人口及び世帯数の推移

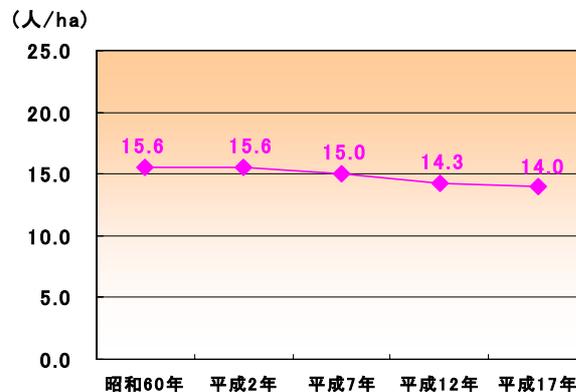


図2-2-8 人口密度の推移

【出展：各年国勢調査】

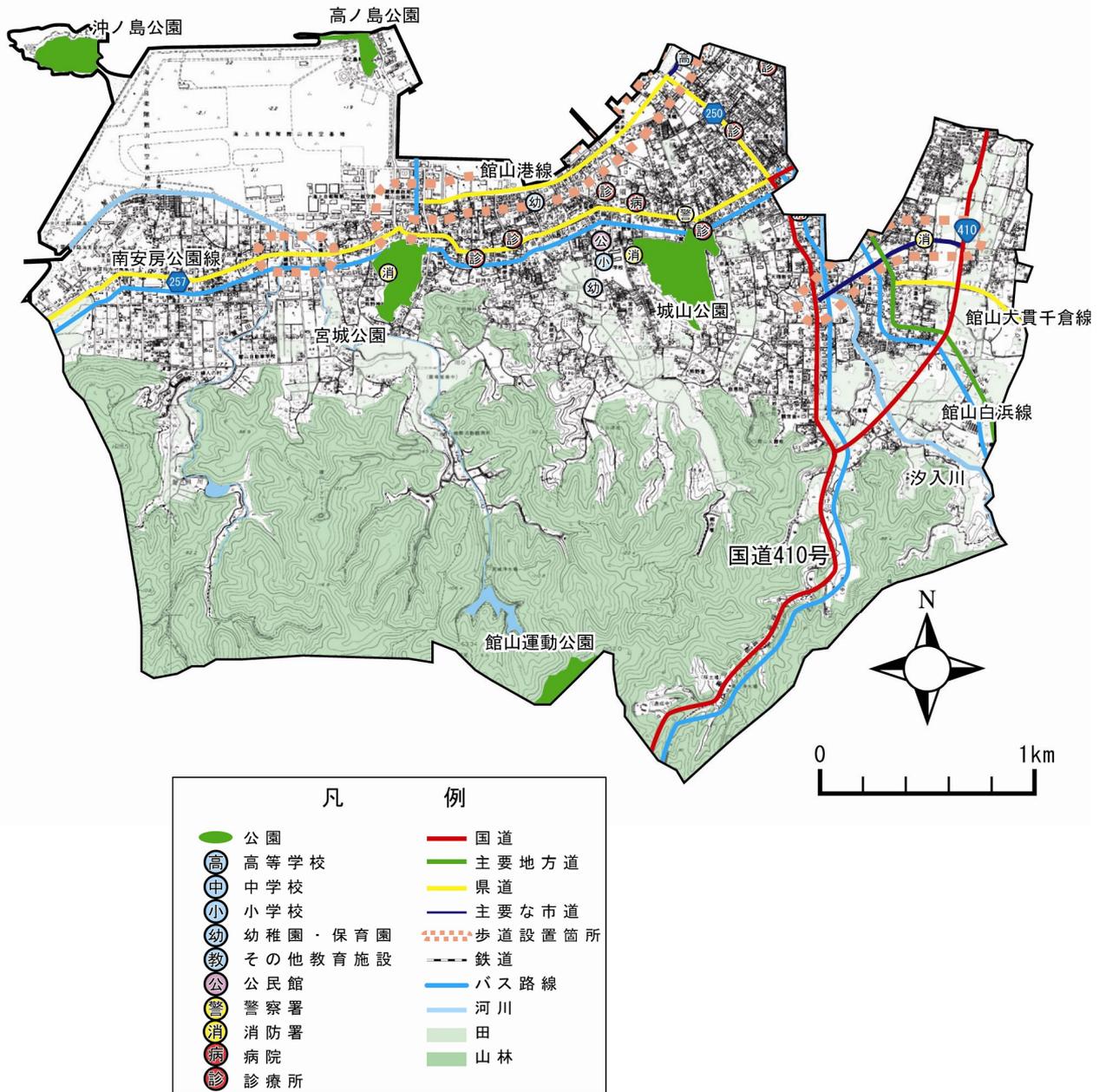


図2-2-9 地区概況

2 地区現況特性の整理

(4) 豊房・館野・九重地区

- 主に北部は田畑、南部は山林等の自然的土地利用が大部分を占める
- 他地区とは異なり、唯一人口が増加している地区である
- JR 内房線の九重駅が所在している
- 国道 128 号沿道を中心に市街化が進行している
- 都市公園が所在しない

1) 概況

本市の東部に位置し、北部は国道 128 号沿道が商業地や住宅地が立地しており、その他の殆どは農地が分布しています。南部はほとんどが山林で、平野部に田畑や住宅地が立地しています。

2) 人口・世帯数

本地区の人口は、他地区とは異なり、昭和 60 年から 20 年間で約 10%増加し、世帯数は約 45%増加しています。

人口密度は、昭和 60 年から 20 年間ほぼ同水準で推移しており、平成 17 年では 1.8(人/ha)となっています。

3) 主要な施設

本地区は、東西に JR 内房線が通っており、九重駅が所在しています。

主要な道路は南北方向に主要地方道館山白浜線、東西に一般国道 128 号、一般県道館山千倉線、館山大貫千倉線が通っています。歩道は一般国道 128 号において充足しているものの、主要地方道館山白浜線や一般県道館山千倉線、館山大貫千倉線においては充足していない状態にあります。

また本地区には、都市公園が所在していません。

4) 市街化動向

一般国道 128 号沿道を中心に新築が見られ、市街化が進行しています。

また本地区の山間部では、千葉県企業庁による館山工業団地の計画があります。

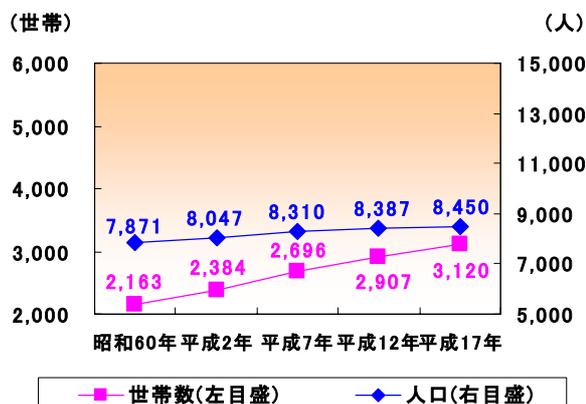


図 2-2-10 人口及び世帯数の推移

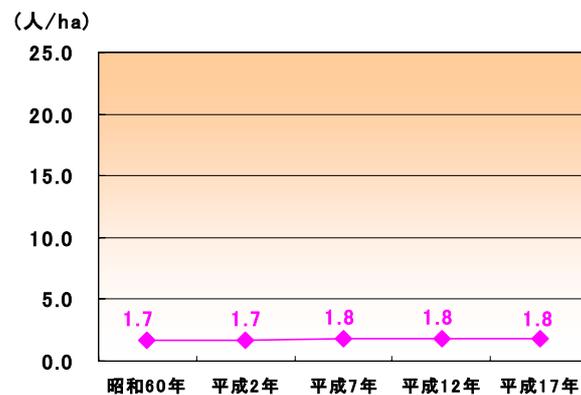
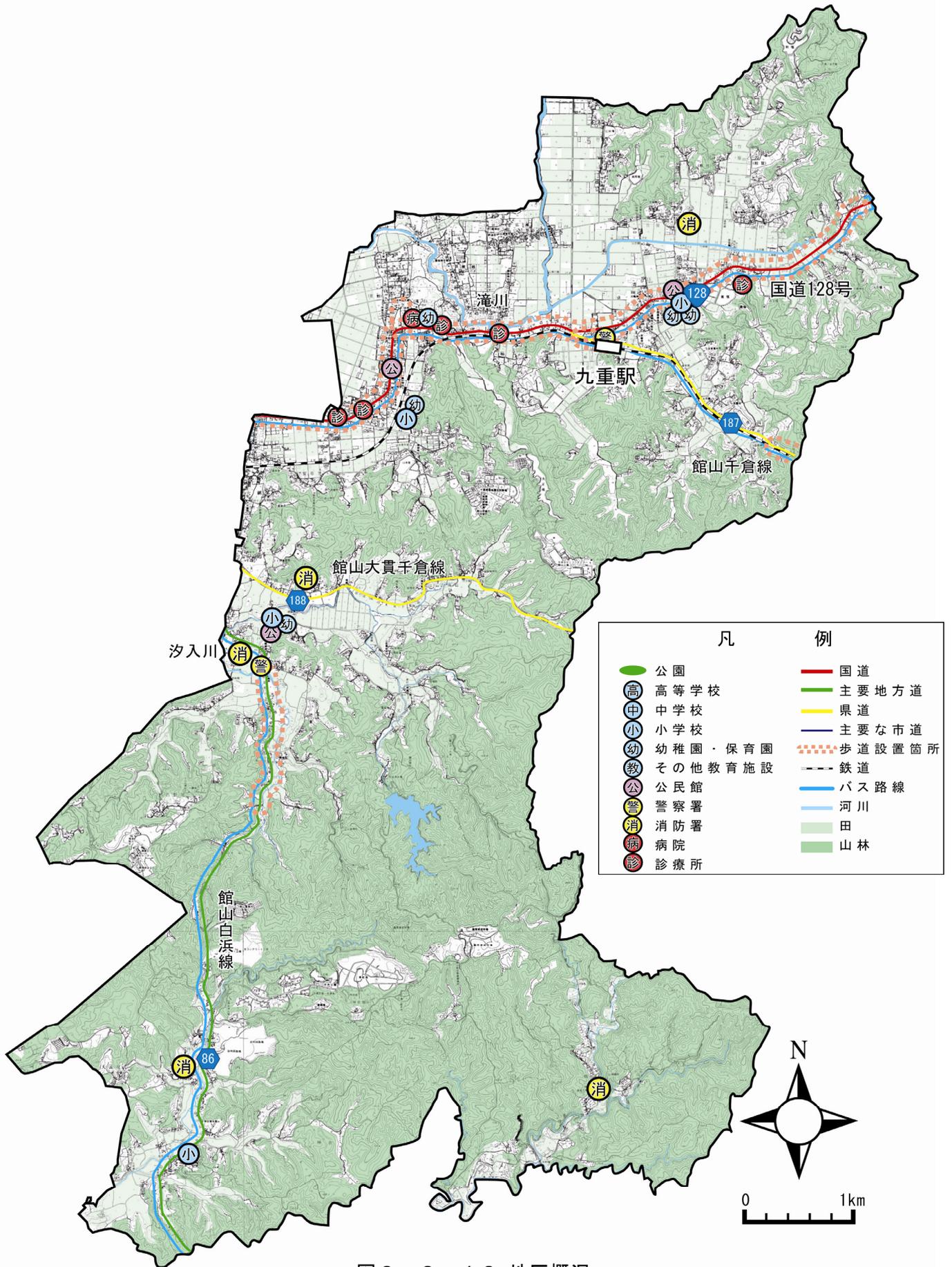


図 2-2-11 人口密度の推移

【出展：各年国勢調査】



2 地区現況特性の整理

(5) 西岬・神戸・富崎地区

- 一般県道南安房公園線沿道に、リゾート施設が多く立地
- 人口は減少傾向にある
- 一般国道410号及び一般県道南安房公園線沿道に新築が見られる

1) 概況

本市の西部に位置し、北部海岸線沿いは主に住宅地やリゾート施設が立地し、南部海岸線沿いは畑やリゾート施設、ゴルフ場等が立地しています。また、富崎漁港を中心として、住宅地が広がっており、港町が形成されています。

2) 人口・世帯数

本地区の人口は、昭和60年から20年間で約20%減少しています。一方、世帯数は微増傾向にあるものの、ほぼ同水準で推移しています。

人口密度は、昭和60年から20年間で微減傾向であるものの、ほぼ同水準で推移しています。

3) 主要な施設

本地区の主要な道路は、本区域東部を南北方向に一般国道410号、海岸線沿いを一般県道南安房公園線が通っています。一般国道410号は歩道設置率が高いものの、一般県道南安房公園線の歩道設置率は低い状態にあります。

また本地区には、運動公園の館山運動公園が所在しています。

4) 市街化動向

主に一般国道410号及び一般県道南安房公園線沿道に新築が見られます。

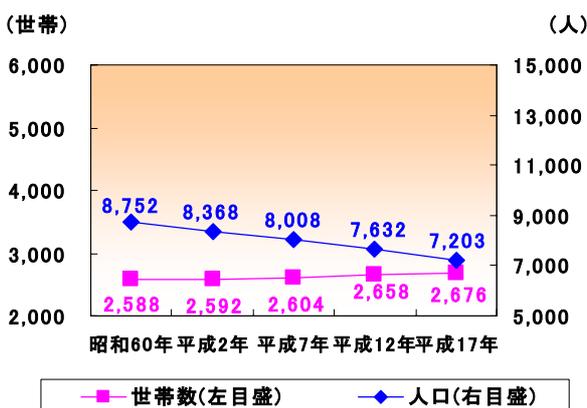


図2-2-13 人口及び世帯数の推移

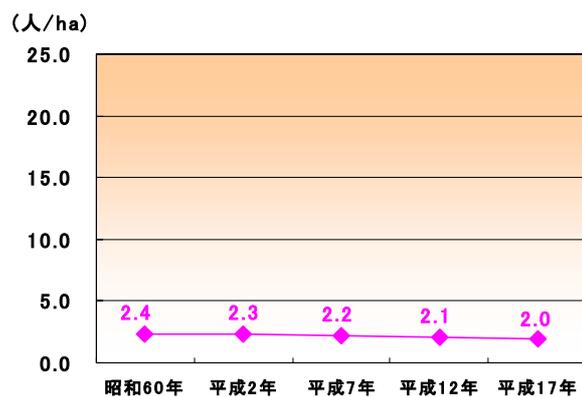


図2-2-14 人口密度の推移

【出展：各年国勢調査】

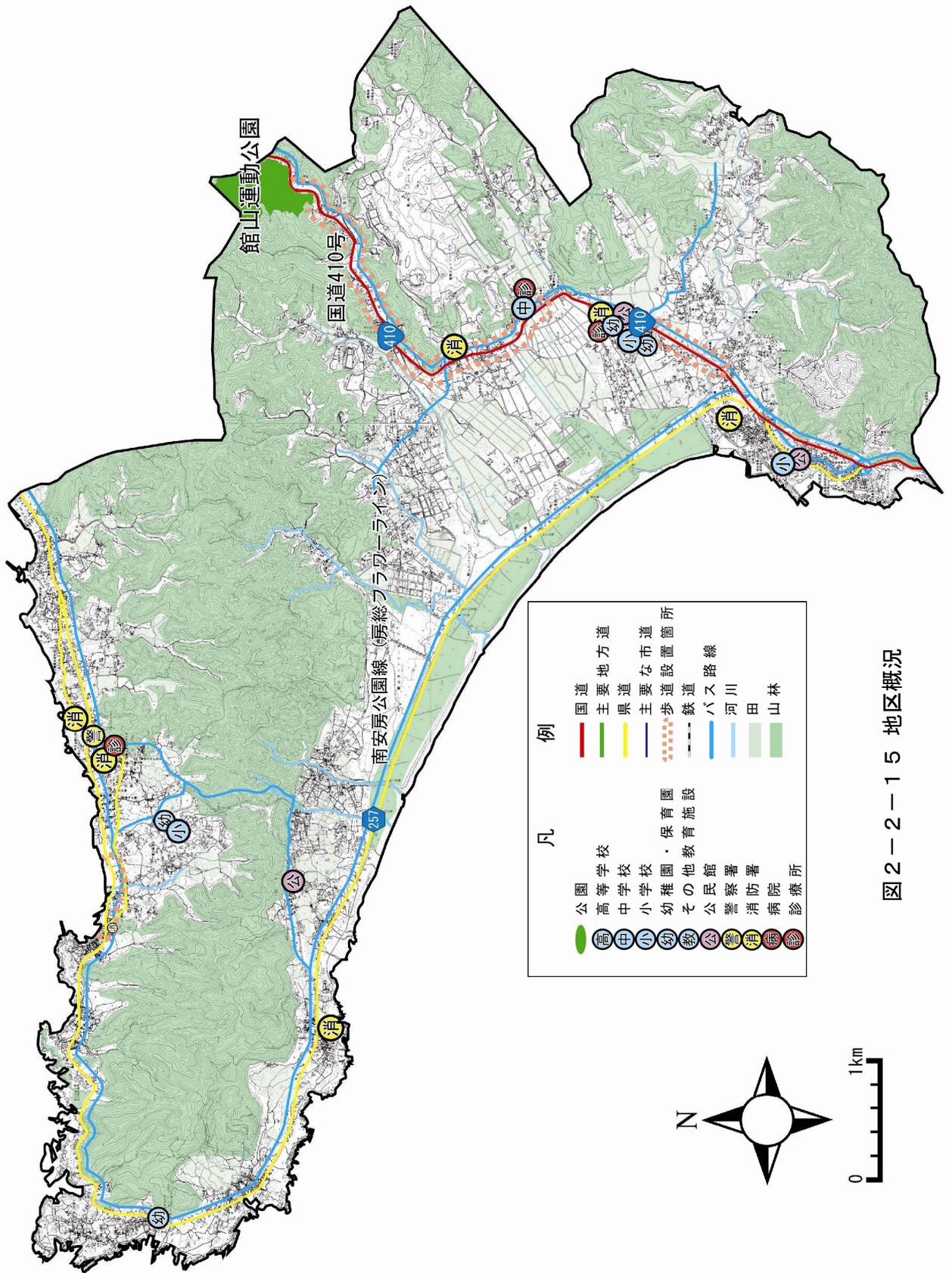


図 2-2-15 地区概況

